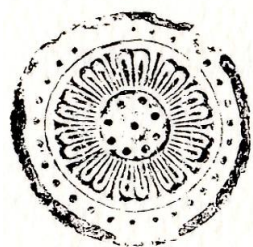


大分市歴史資料館年報

(平成 22 年度)



2011

は じ め に

本年度は4回のテーマ展示「お神楽の世界」「どこがちがうの？ーものの形から歴史を探るー」「古地図が伝える大分の歴史」「日本歴史遺産ー大分の国指定史跡ー」と、秋季特別展「偉人たちの風貌ー大分の肖像ー」の展示会を開催しました。特別展では、歴史の発展の中で大きな役割を果たした、大分ゆかりの偉人たちの肖像を集めて紹介しました。肖像は、その人物の特徴が何らかの形で写し出されたものであり、像主の人物像などを理解する上で常に欠かせないものです。これらの肖像から、彼らが生きた歴史や時代、込められた願いや思いなどに触れていただくことができたのではないかと思います。

教育普及活動では、本年度も、高校生以上を対象とした「ふるさとの歴史再発見」講座や、火起こしや勾玉作りなどの「ふれあい歴史体験講座」を実施しました。また、大分市内の小中学校やPTA、子ども会など多くの団体から移動教室などの体験活動を利用いただきました。これらの展示や普及活動により、歴史資料館の利用者数は、開館2年目とほぼ同程度の4万人超を維持することができています。

ここに当館の平成22年度の事業をまとめ、皆様のご厚志にお応えするとともに、これからの活動の礎とする為に、「大分市歴史資料館年報（平成22年度）」を作成いたしました。

館員一同、市民の皆様の期待に応え、「郷土の歴史」を学べる場としてより一層活用していただけるよう、努力してまいりたいと思います。

今後とも、大分市歴史資料館の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年5月31日

大分市歴史資料館
館長 讃岐 和夫

目 次

展 示	1
テーマ展示 特別展 その他展示	
資料調査	10
資料収集	13
教育普及活動	15
平成 22 年度 大分市歴史資料館研修報告	20
大分市立大在西小学校 教諭 長田 晋	
歴史資料館利用状況	23
管理及び運営	24
歴史資料館協議会 組織機構・事務分掌・職員・歳入歳出 施設管理業務の内容	
施設の概要	25
利用案内	26

展 示

(1) テーマ展示

第1回 「お神楽の世界」

会期 4月17日(土)～6月27日(日)

開館日数：61日 入館者数：5,031人

神楽の始まりは、日本神話にある天照大御神を天岩戸から誘い出すために行った天鈿女命の舞と言われている。後に神楽は神の招魂・鎮魂の神事として発展してきた。また、神話には天鈿女命の舞の周りで八百万の神々が集まり笑いを楽しんでいる光景も記されており、今日の神楽の情景ととてもよく似ている。

大分市内の神楽は、神話の内容を重視した岩戸神楽で、現在市内には19社の神楽社が活動している。展示では演目にちなんだ神話の内容をはじめ、普段間近でみることの出来ない衣装や楽器などを紹介した。

主な展示品

古事記・日本書紀第一巻（西寒多神社）／御神楽秘伝書（伊与床五柱神社神楽社）／神楽面・採り物（片島里神楽）／神楽の楽器（尾津留神楽社）
【演目復元展示】「大蛇退治」（尾津留神楽社）／「岩戸開」「綱伐」「国司」（片島里神楽）



演目展示風景「大蛇退治」



演目展示風景「国司ほか」



「神楽と道具」



「神楽のはじまり」

第2回 「どこがちがうの？」

—ものの形から歴史を探る—

会期 7月10日(土)～10月17日(日)

開館日数：85日 入館者数：4,991人

大分市内には、およそ400箇所の遺跡が見つかり、毎年市内のどこかで発掘調査が行われている。そこからはたくさんの土器や石器などの出土品（考古学では「遺物」と呼ぶ）が発見されている。特に文字が使われていない時代では、この出土した遺物・遺跡が当時の人々の生活の様子を知る唯一の手がかりになる。展示では、市内で出土した各時代の代表的な遺物を並べて比較展示し、その違いや変化から、どのように人々のくらしが移り変わっていったのかをクイズ感覚で読み解いていった。

主な展示品

ステゴドン象上アゴ化石とシカの下アゴ／尖頭器と石鏃／旧石器と縄文土器／打製石斧と磨製石斧／縄文土器と弥生土器／石包丁と鉄鎌／弥生土器と土師器／土師器と須恵器／各時代の勾玉など



展示風景「縄文土器と弥生土器」ほか



展示風景「石やりと矢じり」ほか



展示風景「弥生土器と土師器」ほか



展示風景「ふれあい土器コーナー」

どこがちがうの？ **ものの形から歴史を探る**

やじり
いし
るやり

縄文土器

弥生土器

土師器

須恵器

大分市歴史資料館
テーマ展示Ⅱ

会期 平成22年7月10日(土)～10月17日(日)

大分市内では、およそ400箇所の遺跡が見つかり、毎年市内のどこかで発掘調査が行われています。そこからはたくさんの土器や石器などの出土品（考古学では「遺物」と呼びます）が発見されています。特に文字が使われていなかった時代では、この出土した遺物、遺跡が当時の人々の生活の様子を調べる唯一の手がかりになります。今回の展示では、市内の出土品を中心に、各時代の代表的な遺物を並べて比較展示し、その違いや変化から、どのように人々のくらしが移り変わっていったのかをクイズ感覚で読み解いていきます。また、縄文土器など各時代の出土した遺物（土器）を直接さわれるコーナーも設け、当時の人々の息吹を身近に感じることができます。【展示解説講座】平成22年7月18日(日)14:00～〈無料〉

第3回 「古地図が伝える大分の歴史」

会期 12月11日(土)～1月30日(日)

開館日数：37日 入館者数：1,894人

開発によって日々姿を変える現代社会にあって、昔の地図や絵図は、かつての地域の姿を顧みることのできる貴重なもの。そうした古地図には、地域の歴史とともに、失われた景観や人々の暮らしの様子が表わされている。

展示では、国絵図・城絵図・村絵図など様々な古地図を通して、大分が歩んだ歴史の一端を紹介した。

主な展示品

〈西洋人がみた大分〉ティセラ「日本図」／ガルディン「日本地図」／「日本西海道九州之図」『海東諸国記』 〈江戸幕府が描かせた大分の絵地図〉日根野時代府内藩領図／大給松平氏時代府内城下図／正保の城絵図「豊後府内城之絵図」(写本)／府内城模型(1/250) 〈江戸時代の生活や景観を描く絵地図〉御城下絵図(大分市指定有形文化財)／杵築府内間山水図／豊後国細見絵図／仙石橋・船奉行屋敷・春日御茶屋図(松栄神社) など



展示室風景「西洋人がみた大分」ほか



展示風景「江戸幕府が描かせた大分の絵地図」ほか



展示風景「御城下絵図の世界」



展示風景「江戸時代の生活や景観を描く絵地図」ほか

テーマ展示
Ⅲ 古地図が伝える
大分の歴史 大分市歴史資料館

みんなで何を
見ているのかな？
答えは歴史資料館で！

？

御城下絵図(部分) 一部複製

会期
平成22年
12月11日
(土)
、
平成23年
1月30日
(日)

開発によって日々姿を変える現代社会にあって、昔の地図や絵図は、かつての地域の姿を顧みることのできる貴重なものです。そうした古地図には、地域の歴史とともに、失われた景観や人々の暮らしの様子が表わされています。本展示では、国絵図・城絵図・村絵図などの様々な古地図を通して、大分が歩んだ歴史の一端をご覧ください。

【展示解説講座】平成22年12月19日(日)14:00～〈無料〉

第4回 「日本歴史遺産—大分市の国指定史跡—」

会期 2月5日(土)～4月3日(日)

開館日数：50日 入館者数：2,917人

国指定史跡とは、「文化財」の種類のひとつで、歴史上または学術上価値が高いと認められる遺跡について、国が指定をおこなったもの。日本の歴史を正しく理解するために欠くことができない、いわば歴史遺産ともいえるべき存在です。この国指定史跡が大分市内には現在9つあり、歴史資料館に隣接する「豊後国分寺跡」もその国指定史跡の1つ。展示では、日本の歴史を知る上で重要な市内の国指定史跡について紹介した。

主な展示品

①[築山古墳]鏡・玉類・貝釧・鉄製品（大分県指定有形文化財・築山古墳保存会）／埴輪など ②[亀塚古墳] 玉類・鉄製品・家型埴輪・船型埴輪・線刻画埴輪など ③[横尾貝塚] 石棒・石刀・石製垂飾具 未成品・土製腕輪など ※ふれあい縄文土器コーナー ④[大友氏遺跡] 万寿寺跡出土瓦・瀬戸焼水注 ⑤[大分元町石仏] 不動明王頭部／元町参道調査出土品／薬師如来坐像実物大パネル（胸部上） ⑥[高瀬石仏] 深沙大将実物大パネル ⑦[豊後国分寺跡] 出土軒瓦 ⑧[千代丸古墳] 須恵器甕／宮苑遺跡出土品／宮苑遺跡復元模型 ⑨[古宮古墳]



展示風景「元町石仏」ほか



展示風景「千代丸古墳」ほか



展示風景「高瀬石仏」ほか



展示風景「横尾貝塚」ふれあい縄文土器コーナー

大分市内には[国指定史跡]が
いくつあるか知っていますか？

テーマ展示Ⅳ

日本 歴史遺産
JAPAN HISTORICAL HERITAGE

大分市の 国指定史跡
NATIONAL HISTORIC SITES
OITA CITY

平成23年 2月5日(土)～4月3日(日)

国指定史跡とは、「文化財」の種類のひとつで、歴史上または学術上価値が高いと認められる遺跡について、国が指定を行ったものです。日本の歴史を正しく理解するために欠くことができない、いわば歴史遺産ともいえるべき存在です。この国指定史跡が大分市内には現在9つあり、歴史資料館に隣接する「豊後国分寺跡」もその国指定史跡の一つです。

今回の展示では、日本の歴史を知る上で重要な市内の国指定史跡について紹介します。

大分市 歴史資料館

【展示解説講座】
平成23年2月27日(日)14:00～(無料)

(2) 特別展

第 29 回特別展 偉人たちの風貌－おおいたの肖像

人物の容貌や姿態などをうつしとった絵や彫刻、写真のことを一般に肖像と呼んでいる。その制作は我が国では奈良時代に始まり、崇敬する祖師や高僧といわれる僧侶の像をかたちにし、その徳を偲んだ弟子や人々によって儀式や法会などで祀られた。こうした崇拝の対象に加え、肖像の多くは、故人の追善供養を目的に葬儀や年忌法要の際に掲げるために制作された。当初は、故人を慕う人々によって大切に守られてきた肖像も、長い年月を経て人々の記憶から故人そのものの存在が忘れられ、像主が誰なのか分からなくなったり、或いは知らぬ間に朽ち果ててしまう運命をたどることにもなった。現在に残る肖像は、幸いにも家や菩提寺の断絶や火災などの災害にも遭わず、今日まで大切に守り伝えられてきた希少な事例であり、そうした一つ一つの肖像がまさに歴史の遺産というべき存在といえる。

本特別展では、日本の歴史の発展に大いに寄与した大分ゆかりの偉人たちの肖像を一堂に集め、昔の人々がそうであったように、それらとゆっくりと対面していただき、像主の生きた歴史やこれらを守り伝えた人々の思いなどに触れていただいた。

なお、会期中の 11 月 7 日（日）に佐賀県立美術館学芸課主幹の福井尚寿氏をお招きし、「近世肖像画の視点」の演題にて記念講演会を開催した。

平成22年度特別展(第29回)

歴史の中で大きな役割を果たした大分ゆかりの人物

彼らが生きた歴史や時代
込められた願いや想いとは

偉人たちの風貌
－おおいたの肖像－

10月22日(金)～11月23日(火)

休館日 10月25日(月)／11月4日(木)／8日(月)／15日(月)／22日(月)
開館時間 午前9時～午後5時[入館は午後4時30分まで]

観覧料 大人200円(団体150円)／高校生100円(団体50円)／中学生以下無料
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料(交付で手帳を提示)
※団体は20名以上

「偉人たちの風貌・おおいたの肖像」展【記念講演会】
◆日時 11月7日(日)午後1時30分～3時30分
◆講師 福井尚寿氏[佐賀県立美術館 学芸課主幹]
◆テーマ 近世肖像画の視点
◆場所 歴史資料館講座室 ◆料 金 無 料

主催 大分県教育委員会／大分県歴史資料館
後援 大分合同新聞社／NHK大分放送局
OBSS大分放送／TOSテレビ大分
OAB大分朝日放送／エフエム大分
OCV大分ケーブルテレビコム

大分市歴史資料館
〒870-0864 大分市大字蔵分 960-1 TEL.097-549-0880

■交通案内 大分大南線 豊後国分駅下車／大分バス 国分駅前ゆき 歴史資料館入口下車／大分自動車道 大分IC・光力ICからとも約15分

会期:平成 22 年 10 月 22 日(金)～11 月 23 日(火)

会場:第 2 展示室・テーマ展示室

開館日数:28 日 入館者数:6,570 人

出品点数:47 点

●記念講演会

日時:11 月 7 日(日) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

会場:資料館講座室 聴講者数:35 人



オープン式典の様子



記念講演会の様子

展示品リスト

Ⅰ. 祖師たちの御影					
	作品名	年代	数量	サイズ 縦×横cm	所蔵者
1	○弘法大師画像	南北朝時代（14世紀）	1 幅	117.0×79.5	蓮城寺（豊後大野市）
2	○木造祖師形坐像	平安末～鎌倉初	1 軀	像高 54.0	柞原八幡宮（大分市）
3	○由原八幡宮縁起絵巻 下	室町時代（16世紀後半）	1 巻		柞原八幡宮（大分市）
4	一遍上人絵伝 巻4（摸本）	江戸時代（1840年）	1 巻	43.0×1168.0	東京国立博物館
5	善導大師・法然上人対面像	室町時代（16世紀）	2 幅	88.9×36.3/35.9	大橋寺（臼杵市）
6	●親鸞聖人画像	室町時代（16世紀）	1 幅	85.9×44.9	光西寺（大分市）
7	◎放牛光林画像	南北朝時代（14世紀）	1 幅	99.8×54.1	龍祥寺（由布市）
8	独芳清曇画像	中国明時代（1375年）	1 幅	119.5×53.5	大智寺（大分市）
9	●隠元・木庵・即非三幅対像	江戸時代（1661年）	3 幅	各 116.5×44.0	長福寺（大分市）
Ⅱ. 藩主・夫人たちの姿					
	作品名	年代	数量	サイズ 縦×横cm	所蔵者
10	松平忠直画像	江戸時代	1 幅	78.8×47.7	浄土寺（大分市）
11	松平忠昭画像	江戸時代	1 幅	98.7×48.0	浄安寺（大分市）
12	○絹本着色肖像画 木下家定画像	桃山時代（1608年）	1 幅	85.4×36.2	松屋寺（日出町）
13	○絹本着色肖像画 松屋妙貞尼画像	桃山時代（1598年）	1 幅	96.5 × 48.4	松屋寺（日出町）
14	○絹本着色肖像画 齡嶽永寿尼画像	江戸時代（1638年）	1 幅	97.5×42.0	松屋寺（日出町）
15	蓮水妙清画像	桃山時代（1596年）	1 幅	41.8×27.4	大阪城天守閣
Ⅲ. 大友家をめぐる人々					
	作品名	年代	数量	サイズ 縦×横cm	所蔵者
16	○木造伝足利尊氏坐像	南北朝時代（14世紀）	1 軀	像高 96.5	安国寺（国東市）
17	豊太閤画像（「大化帖下絵下」）	江戸時代	1 帖	38.2×38.2	大分県立図書館
18	大友親著画像	室町時代（15世紀）	1 幅	87.0×39.4	大智寺（大分市）
19	大友親綱画像	江戸時代	1 幅	119.0×50.0	大聖寺（豊後大野市）
20	大友親綱画像（「大化帖下絵上」）	江戸時代	1 帖	38.0×44.0	大分県立図書館
21	大友宗麟画像（模写）	原本：桃山時代 1587年	1 幅	103.0×43.5	大分市歴史資料館／ 原本 大徳寺瑞峯院
22	大友宗麟肖像画（『日本の花束』）	1650年版	1 冊	18.4×14.2	大分市歴史資料館
23	立花道雪画像（複製）	原本：江戸時代 1624年	1 幅	96.0×48.6	大分市歴史資料館／ 原本 福厳寺（柳川市）
24	錦絵 大日本六十余将 豊後大友刑部大輔氏時	幕末～明治（19世紀）	1 枚	36.4×24.2	大分市歴史資料館
25	錦絵 太平記拾遺 大友侍従義統	幕末～明治（19世紀）	1 枚	24.5×18.0	大分市歴史資料館
26	ザビエル肖像画 （『東洋の使徒フランシスコ・ザビエルの生涯』）	1597年版	1 冊	17.2×11.2	大分市歴史資料館
27	ザビエル肖像画	1682年初版	1 冊	25.7×17.8	大分市歴史資料館

	(『聖フランシスコ・ザビエル伝』)				
28	ザビエル肖像画 (「マリア十五玄義図」)	原本:江戸時代	1 点	81.9×56.0	大分市歴史資料館／ 原本 個人蔵
IV. 奇才な先人たち					
	作品名	年代	数量	サイズ 縦×横cm	所蔵者
29	○柿本人麿図	鎌倉時代 (13 世紀)	1 幅	34.3×37.5	円寿寺 (大分市)
30	古田重然 (織部) 画像	江戸時代 (1803 年)	1 幅	87.4×29.2	大阪城天守閣
31	三浦晋 (梅園) 画像	明治時代	1 幅	145.0×46.0	個人
32	帆足萬里画像	江戸時代	1 幅	47.8×32.7	個人／大分県立先哲 史料館寄託
33	脇蘭室画像	江戸時代	1 幅	83.5×35.8	個人／大分県立先哲 史料館寄託
34	後藤碩田画像	江戸時代	1 幅	145.0×46.0	個人／大分市歴史資 料館寄託
35	十市石谷画像	江戸時代 (19 世紀)	1 幅	34.2×21.5	東京国立博物館
36	瀧廉太郎肖像写真	明治時代	4 点		大分市歴史資料館
37	参考資料 瀧廉太郎直筆楽譜「花盛り」		1 枚	43.5×58.5	大分市歴史資料館
38	参考資料 瀧廉太郎遺品(眼鏡・肘あて)		2 点		大分市歴史資料館

◎は国指定重要文化財、○は県指定有形文化財、●は市指定有形文化財



「Ⅰ. 祖師たちの御影」のコーナー



「Ⅰ. 祖師たちの御影」のコーナー



「Ⅱ. 藩主・夫人たちの姿」のコーナー



「Ⅱ. 藩主・夫人たちの姿」のコーナー



「Ⅲ. 大友家をめぐる人々」のコーナー



「Ⅲ. 大友家をめぐる人々」のコーナー



「Ⅲ. 大友家をめぐる人々」のコーナー



「Ⅲ. 大友家をめぐる人々」のコーナー



「Ⅲ. 奇才な先人たち」のコーナー



「Ⅲ. 奇才な先人たち」のコーナー



「Ⅲ. 奇才な先人たち」のコーナー



特別展開催設置看板

（３）その他の展示

自分史・家族史コーナー

市報（8月1日号）にて展示希望者を募ったが、応募者が一人もなく、本年度展示を行わなかった。代わりに、反響の大きかったテーマ展示Ⅰ「お神楽の世界」の内、大分市内で活動している19の神楽社の紹介パネルを再度展示した。また、九州各地の郷土玩具についての展示を行った。



常設展示（部分）展示替え

「旧石器のコーナー」

●大分県埋蔵文化財センターより借用していた津留遺跡（豊後大野市）の返却にともない、市内出土の旧石器の充実を図った。



「弥生のコーナー」

●下郡遺跡群の出土品について、勾玉をはじめとする出土品の充実を図った。



「中世のコーナー」

●「教会と音楽」として、グレゴリオ聖歌譜やフイーデル・リュートの復元楽器を展示、大友親著画像（複製）・大友親綱画像などに展示替え。



「近世のコーナー」

●府内城復元模型を追加展示し、釘抜き紋散蒔絵長文箱・釘抜き紋入り根付つき桜楓山水図蒔絵印籠などに展示替え。



「民俗のコーナー」

●「農機具コーナー」について、新しくバックパネルや照明を新設するなど大きく展示替えを行った。



資 料 調 査

平成 23 年度特別展関係調査

平成 23 年度特別展「大分の君－飛鳥と豊後をつないだ人－」の開催にむけた資料調査を下記のとおり実施した。

1. 羽曳野市教育委員会 社会教育課

調査日 平成 23 年 3 月 22 日

調査員 中西武尚

調査概要

■古宮古墳の位置付けを考える上で欠くことのできない横口式石槨をもつ終末期古墳についての各調査を実施した。ここでは、横口式石槨をもつ代表的な終末期古墳である「オウコ 8 号墳」「鉢伏山西峰古墳」「小口山古墳」の資料調査を行った。いずれも 7 世紀中頃の築造と考えられるもので、出土した須恵器・土師器・埴などの実見・写真撮影を行い、出品についての内諾を得た。



オウコ 8 号墳出土 土師器・須恵器ほか



鉢伏山西峰古墳出土 埴

2. 富田林市教育委員会 生涯学習部 文化財課

富田林市立埋蔵文化財センター

調査日 平成 23 年 3 月 22 日

調査員 中西武尚

調査概要

■横口式石槨の源流と考えられる終末期古墳の「お亀石古墳」と、お亀石古墳から出土した百済系平瓦と同型の平瓦をもつ「新堂廃寺跡」、さらに新堂廃寺に使用された瓦窯跡である「オガンジ池瓦窯跡」の資料調査を行った。いずれも一連の国指定史跡であり、横口式石槨をもつ終末期古墳と初期寺院との深い関係を示す史跡として位置付けられている。お亀石古墳は、7 世紀前半中頃の築造と考えられるもので、出土した須恵器・埴の実見・写真撮影を行った。また、3 つ遺跡の直接的なつながりを示す、同じ桶を使用して製作されたと考えられる平瓦（新堂廃寺創建期中の門跡出土・オガンジ池瓦窯出土）について、実見・写真撮影を行い、出品についての内諾を得た。お亀石古墳出土の平瓦については、大阪府教育委員会所蔵のものであり、翌日に別途資料調査をおこなった。



お亀石古墳出土 須恵器

3. 大阪府立近つ飛鳥博物館

調査日 平成 23 年 3 月 23 日

調査員 中西武尚

調査概要

■横口式石槨をもつ代表的な終末期古墳である「竜田御坊山 3 号墳」「松井塚古墳」「竜田御坊山

3号墳」など同館で常設展示している終末期古墳などについての資料調査を行った。副葬品が少ないことで知られる終末期古墳にあって、三彩有蓋円面硯やガラス管製筆など貴重な資料が出土した竜田御坊山3号墳出土の資料（重要文化財）は、橿原考古学研究所附属博物館が所蔵しており、他館への貸出が決まっていたことから、代替資料としての複製品の出品を依頼した。この他、松井塚古墳の石槨内部に敷詰められていた土師器皿についても出品のお願いをした。また、常設展示されていた「塚廻古墳」「御嶺山古墳」の出土品（個人所蔵）についての情報を得ることができた。これら出土品だけでなく、各古墳の模型の出品などもお願いした。



竜田御坊山3号墳出土 三彩有蓋円面硯ほか

4. 大阪府教育委員会事務局 文化財保護課 調査管理グループ

調査日 平成23年3月23日

調査員 中西武尚

調査概要

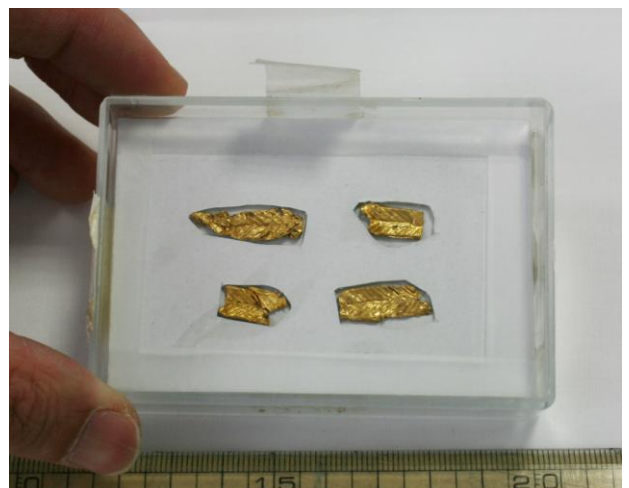
■横口式石槨の成立を考える上で重要な位置付けにある「お亀石古墳」と「シシヨツカ古墳」の資料調査を行った。お亀石古墳では、前日に調査を行った富田林市教育委員会の所蔵品とは別の平瓦の実見・写真撮影を行った。

シシヨツカ古墳は、横穴石室から横口式石槨への変遷、あるいは漆塗籠棺の初現や系譜を考える重要な古墳であり、副葬品では、金・銀象嵌の模様が施された大刀金具や、多量のガラス玉、金・銀の装飾品が出土している。また、羨道部分には、

葬送儀礼に伴ったとされる高坏を納めた埋甕も確認されている。これらの出土品について、資料調査を行った。副葬品のほとんどは、非常に小さいものであり、展示に耐え得る資料について、選定を行い出品の内諾を得た。尚、ガラス玉類については、他館に貸出中であり、返却後の4月以降に再度選定に来て欲しいとのことであった。



シシヨツカ古墳出土 銀象嵌大刀金具



シシヨツカ古墳出土 金製品

5. 奈良県立橿原考古学研究所・附属博物館

調査日 平成23年3月24日

調査員 中西武尚

調査概要

■特別展の主体である飛鳥時代を語る上で、欠くことのできない飛鳥京跡の出土品や大和飛鳥地域の横口式石槨をもつ「平野塚穴山古墳」「東明神古墳」などの資料調査を行った。特に、特別展では壬申の乱を大きく取り上げる予定であり、関係する「大津皇子」「太来」「大友」の人物名の木簡や当時の位を表わす「大花下」「小山上」など

の冠位木簡、壬申の乱にゆかりのある宮滝遺跡や島庄遺跡（嶋宮）の出土品についても調査を行い、出品についての内諾を得た。木簡については、原資料の展示が行えないことから複製品の出品をお願いした。また、常設展示中の飛鳥京内の施設（「大極殿」の可能性）であるエビノコ大殿の復原模型についても出品が可能とのことであった。この他、当該期の出土品について多数閲覧させていただいたが、基本的には、出品は可能とのことであり、今後の展示計画の中で検討していく旨を伝えた。



「大津皇子」木簡ほか（複製品）

6. 独立行政法人文化財研究所

奈良文化財研究所 都城発掘調査部

飛鳥・藤原地区

調査日 平成 23 年 3 月 25 日

調査員 中西武尚

調査概要

■飛鳥時代を語る上で、欠くことのできない飛鳥池遺跡や藤原宮跡、横口式石槨の代表である「キトラ古墳」などの資料調査を行った。この時期から使用され始めた「天皇」銘の木簡、国家の工房に位置付けられる飛鳥池遺跡から発見されたガラス工房品や金・銀工房品、わが国で最初に鋳造されたと考えられる「富本銭」などの各出土品について実見し、資料の選定を行った。木簡・富本銭については、原資料の展示が行えないことから複製品の出品をお願いした。キトラ古墳の資料についても、実見し資料の仮選定を行ったが、文化庁が所管している資料であり、その許可が必要と

のことであった。許可の出ない場合については、複製品での代替が可能とのことであった。



「天皇」銘の木簡ほか（複製品）

7. 独立行政法人文化財研究所

飛鳥資料館

調査日 平成 23 年 3 月 25 日

調査員 中西武尚

調査概要

■終末期古墳の代表である「高松塚古墳」「石のカタ古墳」「阿武山古墳」などの資料調査を行った。石のカタ古墳出土の銀製大刀金具や金・銀製玉については、実物資料の出品の内諾を得たが、高松塚古墳出土品については、複製品での出品の内諾を得た。また、藤原鎌足の墓と推定されている阿武山古墳出土の冠帽・枕の復原品についても出品の内諾を得た。さらに、壬申の乱に関連して、過去の展覧会で製作されていた「箸墓の戦いの想像模型」について、出品が可能との内諾をいただいた。



高松塚古墳出土品（複製品）

資料収集

資料収集委員会

1. 会議

開催日 平成 23 年 3 月 3 日 (木)

場 所 資料館会議室

議 題 ①22 年度購入予定資料の説明

②購入予定資料の熟覧

③22 年度購入予定資料の審議

④その他

2. 委員名簿

氏 名	役 職	分 野
豊田寛三 氏	別府大学長	日本近世史
段上達雄 氏	別府大学文学部教授	日本民俗学
菊竹淳一 氏	九州大学名誉教授	日本美術史
下村 智 氏	別府大学文学部教授	日本考古学
鳥井裕美子 氏	大分大学教育福祉科 学部教授	日欧交流史

寄贈資料

(1) 大日本国防婦人會記念写真 1 枚／家屋譲渡
代金通知書 1 枚／日刊 紙業経済新聞 1 枚／死
亡告知書 2 枚／陸軍在郷軍人身上調査ノ件照會
1 枚／個人金融通帳 1 枚／勤労報國隊変更通知書
1 枚／郵政儲金簿 1 枚／第二封鎖預金損失御負担
額計算書 1 枚／戦時補償関係の特殊預金等の申
告書提出依頼書 1 枚／戦時報國債券 9 枚／戦時
貯蓄債券 11 枚／戦時郵便貯金切手 3 枚／支那事
変出征記念写真帖「光輝」1 冊 35 点

佐伯和子 氏

(2) 芝田定書簡 便箋 2 枚／門池鐔吉書簡 便
箋 1 枚／妊娠婦保険手帳 1 冊／昭和初年大分
駅前写真 1 枚／金剛寶戒寺山門での記念写真
1 枚／昭和 20 年代の若松通りでの記念写真 1 枚
／日豊建設株式会社社屋の写真 1 枚／高崎山を
訪れる昭和天皇皇后両陛下の写真 3 枚／教育会
館舞台での演奏会「茶音頭」の写真 1 枚 13 点

伊坂滋子 氏

(3) NHK「戦争証言プロジェクト」投稿原稿
コピー 51 枚／「白系ロシア人の悲劇」 原稿コ
ピー 9 枚 2 件 60 枚

竹下ヤエ 氏

(4) 栄重 1 点

佐藤サヨ子 氏

(5) 蚊帳 (お獅子様で使用する祭礼用具) 1 点

胡麻鶴寿市 氏

(6) 竜吐水 1 点

光吉重久 氏

(7) 装蹄道具一式 34 点

太田徹 氏

(8) 稲作道具一式 13 点

兵頭恵美子 氏

購入資料

(1) 大友義統感状 (縦 24.0×横 35.0 cm) 1 幅

大友義統が、天正 7 年 (1579) 筑前安楽平城 (福
岡市早良区にあり、荒平城とも) における大友氏
と肥前龍造寺氏との戦いで、城督の小田部紹叱父
子と共に戦死した舎弟宗逸の働きと日頃の忠義
を賞して、同年 9 月 23 日付で大津留安芸入道に
与えた感状。あわせて宗雲、宗秀が異論なく敵の
動きを取り静めるよう、申し伝えることを命じて
いる。「大友家文書録 五」(『大分県史料 33』) に
収められた文書 (1704 号文書) の正文とみられる
ものである。福岡市博物館所蔵の小田部文書に収
められた 9 月 28 日付、小田部上総入道あて大友
円斎 (宗麟) 書状写によると、「去八日肥前之悪
党其堺江取出候処、懸合雖被得勝利候、紹叱・同
九郎紹逸戦死之段到来之条、以先書如申候」とあ
り、本感状に「小田部紹叱」と共に戦死したとあ
る子息が「九郎紹逸」であり、また「雖順路之儀
候、宗雲夫婦之愁傷察存候、猶于今□ (者カ) 被晴
朦気、當城堅固之格護肝要候」の内容から、同じ
く上記感状にみえる「宗雲」が円斎書状写の宛名
の「小田部上総入道」で、戦死した紹叱の親族に
あたる人物と考えられる。芥川龍男氏の研究 (「戦

国末期における筑前小田部氏について『駒沢史学』32号)によると、小田部紹叱は、本名を「鎮元」といい、「民部少輔」を称し、剃髪して紹叱と名乗った。また、もとは名明利城(福岡県筑紫郡那珂川町にあり、鷲ヶ岳城とも)の城督であった大鶴(大津留)氏の出で、小田部氏を嗣いで安楽平城の城主となった人物と紹介されている。そして、大友氏の筑前支配の拠点であった博多津と志摩郡政所の間をつなぐ重要な山城が、大津留氏が守る名明利城、小田部氏の安楽平城であったされている。本義統感状は、天正6年の高城・耳川合戦の大敗を機に、この大友氏の筑前支配体制の一角であった安楽平城崩壊の動きが分かる貴重な内容である。

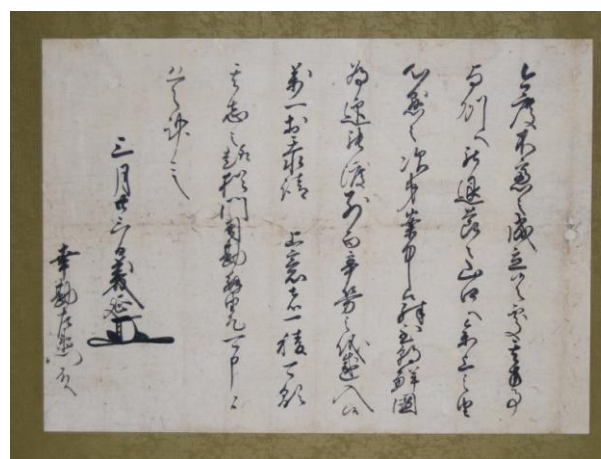


大友義統感状

●書き下し 「今度、小田部紹叱父子、舍弟宗逸／戦死候、連々忠儀之覚悟、乍案／中感入候、併宗雲・宗秀、無異／儀候之条肝要候、必取鎮、可賀之／趣相心得、可被申遣事専一候／恐々謹言／九月廿三日 義統(花押)／大津留安芸入道殿」

(2) 大友義延書状 (縦32.0×横43.5 cm) 1通
大友吉統(義統)の長子、大友義延が、文禄2年(1593)5月に朝鮮出兵中に改易となった父吉統を迎えるために朝鮮へ渡り、その後も義統の幽閉先である山口へ度々参上した幸勘左衛門の働きに対して感謝の意を表した書状。また、万が一、「上意」によって大友家の再興が叶うことがあれば、その志に報いるとも述べている。宛名の幸勘

左衛門は「其方事与州へ被退」とあるように、主家大友氏の改易後、浪人となり、伊予国へ居を移すことを余儀なくされたものとみられる。義延は、大友家改易後、500人扶持を与えられて加藤清正に預けられ、その後徳川家康に預けられた。慶長5年(1600)の上杉景勝攻めでは、徳川秀忠の軍勢に加わって大いに武功をあげ、常陸国筑波郡に3000石、江戸牛込に300石を与えられ、慶長17年(1612)36歳の若さで亡くなっている。そのため、義延の書状は、数も少なく(『増補訂正編年大友史料』には27通が紹介)、特に本書状は新出の史料であり、大友吉統が常陸国水戸の佐竹義宣の監視下に置かれて文禄3年9月同地へ移されるまでの、義延および家臣の動向がわかる貴重な内容である。なお、本文中に「猶門司勘解由允可申候」とみえる門司勘解由允は、大友宗麟の二男で天正7年(1579)に田原宗家の家督を嗣いだ田原親家のことで、天正19年頃には大友家の宿老も務めている。文禄元年(1592)兄の吉統に従い朝鮮へと渡り、大友家改易後は同族の立花宗茂のもとへ行き、慶長14年(1609)細川三斎に仕え、利根川道孝と名乗っている(大分合同新聞社『大分県歴史人物事典』)。



大友義延書状

●書き下し 「今度、不慮之成立候之处、其方事／与州へ被退、節々山口へ参上之由／心懸之次第、案中候、殊至朝鮮国／為迎罷渡、別而辛勞之儀感入候／万一於忝請 上意者、一稜可顕／其志之趣、猶門司勘解由允可申候／恐々謹言／三月廿三日 義延(花押)／幸勘左衛門殿」

教 育 普 及 活 動

ふるさとの歴史再発見

高校生以上を対象に、歴史、考古、民俗・文化史、古文書の4コースの講座を下記の日程で開講。
定員：70名 / 受講料：各コース300円 / 時間：14時～15時30分

(1) 歴史のコース 期間 5月～7月 第1～3土曜日 受講申込者数(85人)受講者総数(583人)

実施日	内容	講師	受講者
4月10日	大友氏の貫高知行制について	武富雅宣 当館職員	72人
17日	絵図にみる近世の戸次一長曾我部御境争論	大平直子 当館職員	66人
24日	大友家家臣「府内衆」中村氏について	武富雅宣 当館職員	65人
5月1日	下級武士の学問とその評価	村上博秋氏 大分県立先哲史料館主任研究員	65人
8日	柞原八幡宮の建造物について	植木和美 大分市教育委員会文化財課	64人
15日	江戸の旅―上乗人の旅	大津祐司氏 大分県立先哲史料館主幹研究員	65人
6月5日	おおいたの修験	櫻井成昭氏 大分県立歴史博物館主任学芸員	68人
12日	1918年のスペイン風邪とその社会的影響	長野浩典氏 大分東明高等学校教諭	54人
19日	臼杵藩主・稲葉雍通と絵図	岡村一幸氏 臼杵市文化財課主任	64人

(2) 考古のコース 期間 7月～9月 第1～3土曜日 受講申込者数(79人)受講者総数(517人)

実施日	内容	講師	受講者
7月10日	木製品を科学する	石川ゆかり 大分市教育委員会文化財課	67人
17日	発掘を科学する	中西武尚 当館職員	64人
31日	磨崖仏を護るために	山路康弘 滝尾中学校教諭	58人
8月7日	おおいたの歴史を考古学するⅠ	坪根伸也 大分市教育委員会文化財課	57人
14日	大分市内の遺跡めぐり (197号線周辺の遺跡)	中西武尚 当館職員	42人
21日	先取り「発掘された日本列島2010」展観音寺本馬遺跡	松浦憲治 大分市教育委員会文化財課	60人
9月4日	縄文時代の考古学―横尾貝塚の調べ方	塩地潤一 大分市教育委員会文化財課	60人
11日	史跡の見方・味わい方	渋谷忠章 元大分県立歴史博物館館長	54人
18日	おおいたの歴史を考古学するⅡ	坪根伸也 大分市教育委員会文化財課	55人

(3) 民俗・文化史のコース 期間 11月～12月 第1～3土曜日 受講申込者数(63人)受講者総数(286人)

実施日	内容	講師	受講者
11月6日	お獅子様が練り歩く―大分市内の獅子巡幸編―	古瀬美鈴 当館職員	57人
13日	豊後の名物―河童―	細井雅希 //	49人
20日	襖のはなし	阿南希依 //	43人
12月4日	引札からみる広告文化史	大山琢央氏 別府大学文学部非常勤講師	43人
11日	お獅子様が練り歩く―大分市内の獅子伝説編―	古瀬美鈴 当館職員	50人
18日	大分市の神楽―伝播と受容	細井雅希 //	44人

(4) 古文書のコース 期間 1月～3月 第1～3土曜日 受講申込者数(90人)受講者総数(643人)

実施日	内容	講師	受講者
1月8日	臼杵のお伊勢さん「馬代大神宮関係文書」	大平直子 当館職員	85人
15日	〃	大平直子 //	71人
29日	〃	武富雅宣 //	72人
2月5日	〃	大平直子 //	74人
12日	〃	大平直子 //	77人
19日	〃	武富雅宣 //	69人
3月5日	〃	大平直子 //	64人
12日	〃	大平直子 //	61人
19日	〃	大平直子 //	70人

ふるさとの歴史再発見受講者総数 2,029人

学校・団体の利用

大分市内の小中学校を中心に子ども会やPTA、家庭教育学級、児童育成クラブなどさまざまな団体による体験活動の利用があった。

☆移動講座（移動歴史教室）

歴史体験学習をより多くの学校、団体に活用してもらうために、依頼のあった学校や公民館へ出かけて体験学習を実施した。

〈学校・団体体験活動利用数〉

	利用団体数				利用者数				合計
					資料館		移動講座		
	学校	団体	移動	合計	児童・生徒	大人	児童・生徒	大人	
4月	0	2	0	2	70	46	0	0	116
5月	5	3	7	15	615	403	667	25	1,710
6月	1	5	4	10	383	245	336	40	1,004
7月	7	6	3	16	570	316	257	62	1,205
8月	3	8	4	15	313	157	185	66	721
9月	15	1	4	20	961	94	309	66	1,430
10月	22	1	6	29	1,543	151	391	270	2,355
11月	18	1	8	27	1,868	514	453	161	2,996
12月	3	1	3	7	220	64	199	33	516
1月	6	1	4	11	612	124	92	61	889
2月	10	2	3	15	755	160	103	47	1,065
3月	2	2	0	4	190	159	0	0	349
計	92	33	46	171	8,100	2,433	2,992	831	14,356

ふれあい歴史体験講座

親子や一般市民を対象に、下記の歴史体験講座を実施。

時間：午前9時30分～／午後2時～

回	実施日(土曜日)		内容	参加者数		
				子ども	大人	計
1	4/24	午前	ねんど埴輪作り	29	30	59
追加	4/25	午前	ねんど埴輪作り	6	7	13
2	5/15	午前	土笛作り	10	14	24
3	5/29	午前・午後	勾玉作り	85	54	139
4	6/12	午前	土偶作り	43	28	71
5	6/26	午前・午後	管玉・丸玉作り	42	34	76
6	7/10	午前	縄文かご編み	26	37	63
7	8/7	午前	勾玉作り	46	34	80
8	8/28	午前・午後	ねんど埴輪作り	65	43	108
9	9/11	午前	土面作り	11	9	20
10	9/25	午前・午後	勾玉作り	12	21	33
11	10/9	午前・午後	管玉・丸玉作り	9	16	25
12	10/23	午前	遺跡発掘体験	22	24	46
13	11/13	午前	古代火起こし	11	12	23
14	11/27	午前・午後	ねんど埴輪作り	8	10	18
15	12/11	午前	縄文土器作り	7	13	20
16	12/25	午前・午後	和風作り	47	34	81
15-2	1/9	午前・午後	縄文土器焼き	24	33	57
17	1/22	午前・午後	勾玉作り	38	28	66
18	2/12	午前	管玉・丸玉作り	33	26	59
19	2/26	午前・午後	土笛作り	52	46	98
20	3/12	午前	火起こし	31	19	50
21	3/26	午前・午後	勾玉作り	67	47	114
合 計				724	619	1,343

体験講座	材料費
勾玉作り	200円
ねんど埴輪作り	210円
土笛作り	50円
管玉・丸玉作り	260円
和風作り	200円
縄文かご編み	300円
縄文土器作り	300円
土面作り	120円
土偶作り	170円



ねんど埴輪作り

昔のおもちゃで遊ぼう！

子どもの日に豊後国分寺跡史跡公園にて、昔ながらの手作りおもちゃで遊んでもらう体験講座を実施。さらに、今回は開催中であったテーマ展示Ⅰ「お神楽の世界」に関連して、二目川神楽社によるお神楽を舞っていただいた。

実施日：5月5日（火） 9時～16時

料 金：無料

内 容：昔のおもちゃ（折り紙飛行機・割箸紙飛行機・竹トンボ・ブーメラン・竹馬・竹カップ・こま・竹弓矢・羽子板・シャボン玉・水鉄砲・竹アーチェリー・わなげ・ゴム鉄砲・切り紙・糸電話・ぬりえ・数珠玉・お手玉・おはじき）

参加者：341人（大人216人／子ども125人）



お神楽の様子

七夕飾りを作ろう！

七夕の日に向けて、七夕の飾り付けを楽しんでもらう講座を実施。会議室にプラネタリウムを設け、星座解説や機織り体験などを行った。

参加者：66人（大人21人／子ども45人）



飾り付けの様子



機織り体験の様子

勾玉作り教室

7月と11月に各2回、事前申込不要で、随時勾玉作りを楽しんでもらえる講座を実施。

受付時間：9時～11時、13時～15時

材 料 費：1セット 200円

回	実施日	参加者数		
		子ども	大人	計
1	7/24(土)	111	71	182
2	25(日)	133	99	232
3	11/ 3(日)	220	187	407
4	21(日)	252	192	444
合 計		716	549	1,265



勾玉作りの様子



勾玉名人認定書の授与式

夏休みジュニア歴史講座

小中学生を対象に、古代の人々の知恵や技術に触れてもらう体験講座を、2日間連続で実施。

実施日：7月29日・30日 13時30分～16時

内 容：土笛作り、明るさ体験、古代火起こし
勾玉作り

実施日	参加者数		
	子ども	参 観	計
7/29(木)	38	12	50
30(金)	40	10	50
合 計	78	22	100

資料館体験学習講習会

夏休み期間中に小・中学校教諭を対象に資料館の体験活動を紹介する講習会を2回実施。

時 間：9時30分～16時

内 容：資料館体験活動の紹介・体験実践

回	実施日	参加者数
1	8/ 4(水)	0
2	8/10(火)	5
合 計		5

子ども 1 日学芸員

博物館の仕事に興味のある小中高生を対象に、歴史資料館の仕事を体験する講座を実施。

実施日：8 月 18 日(水) 9 時 30 分～16 時

内 容：展示室・展示物の管理（温湿度計交換）

土器の拓本・古文書の解説など

実施日	参加者数			
	小	中	高	計
8/18(水)	6	0	0	6



拓本作業の様子

職場体験学習の受け入れ

	学校数	受け入れ 日数	のべ人数
中学校	6 校	12 日	78
小学校	1 校	1 日	5
合 計	7 校	13 日	83



民具の計測作業の様子



展示解説体験の様子

博物館実習

実習生 2 名を受け入れて、下記の日程・内容で実施した。

実施日	内 容	担当
7/29	ガイダンス/体験学習講習	姫野・中西
7/30	体験実習/教育普及の意義	姫野・中西
7/31	展示の企画・実施について	中西
8/1	考古資料の整理・取り扱い	中西
8/2	民俗資料の整理・取り扱い	細井
8/3	古文書の整理・取り扱い等	武富・大平
合 計		98



博物館実習の様子

展示解説講座

テーマ展示及び特別展の展示品や内容をスライド等で解説する講座を実施。

時 間：14 時～ 料 金：無料

実施日	内 容	参加者
4/25	テーマ展示Ⅰ解説	29
7/18	テーマ展示Ⅱ解説	14
10/24	特別展解説	10
12/19	テーマ展示Ⅲ解説	30
2/27	テーマ展示Ⅳ解説	15
合 計		98



テーマ展示Ⅰ解説講座の様子



特別展オープニング式典後の展示解説の様子

ビデオライブラリー

一般入館者への視聴サービスとして、館蔵ビデオの上映サービスを実施。

時 間：随時 料 金：無料

月	視聴者数		
	子ども	大人	合計
4 月	10	204	214
5 月	4	207	211
6 月	0	189	189
7 月	56	211	267
8 月	15	168	183
9 月	2	179	181
10 月	0	44	44
11 月	252	341	593
12 月	0	169	169
1 月	25	268	293
2 月	0	169	169
3 月	33	216	249
合 計	397	2,365	2,762

ミュージアム・シアター

16mmフィルムやビデオの上映により、映像から歴史に触れてもらう上映会を実施。

時 間：13時～ 料 金：無料

実施日	内 容	人 数		
		子ども	大人	合計
4/25	中江岩戸神楽/上田原湯立神楽 「一休さん／髪長姫」	0	13	13
5/23	赤幡神楽/壱岐神楽 「三枚のお札／そこつ惣兵衛」	0	20	20
6/27	玖珠神楽 「七タさま／さだ六とシロ」	8	8	16
7/18	縄文の生活再現/下郡遺跡を探究する 「河童の雨ごい／イワナの怪」	7	7	14
8/22	吉野ヶ里への道/邪馬台国卑弥呼の道 「耳なし芳一／月見の枝」	7	11	18
9/26	大友宗麟 ザビエルの歩いた道/後藤碩田 「金太郎／宝の下駄」	0	0	0
10/24	豊後の賢人三浦梅園/広瀬久兵衛 「一寸法師／火男」	3	12	15
11/28	帆足萬里我 70 にして脱藩す/由学館と 田能村竹田「分福茶釜／湖の怪魚」	0	9	9
12/19	大分の歴史を訪ねて 府内城 「おむすびころりん／馬方とタヌキ」	4	20	24
1/23	府内商人盛衰記/ミニ城下町野津原 「カチカチ山／大沼池の黒竜」	2	4	6
2/27	大分市の文化財/元町石仏 「養老の滝／雀とキツツキと山鳩」	0	6	6
3/27	亀塚古墳公園/岬の風景 佐賀関町 「こがねの斧／蛙の恩返し」	1	5	6
	合 計	32	115	147

※「」書きは、まんが日本昔ばなし

刊行物

名 称	規格	頁数	部数
歴史資料館ニュース 91 号	A4	4	6,500
〃 92 号	A4	4	6,500
〃 93 号	A4	4	6,500
〃 94 号	A4	4	6,500
第 29 回特別展図録	A4	40	1,000

資料の利用・貸出

(1) 資料の利用提供

件 名	件数
熟覧・写真撮影	40 件
テレビ撮影	3 件
印刷物掲載・写真貸与	30 件

(2) 資料の貸出

団 体 名	展示会名	点数
大分県立歴史博物館	「歴史群像 ―描かれた肖像―」	5 点
日田市立博物館	「川の文化と 海の文化」	2 点
大分県立歴史博物館	「発掘された 日本列島 2010」	3 点

広報事業

平成 22 年度は、以下の施設等に体験活動の利用案内及び、総合案内・歴史資料館ニュースの配布・掲示の P R 活動を実施。

学 校	小・中学校	89 校
	高等学校、大学	75 校
行 政 ・ 博 物 館	地区・校区公民館	47 カ所
	J R 駅関係	15 カ所
	支所・出張所	8 カ所
	その他市関連施設	31 カ所
	県内自治体等	48 カ所
	博物館等	297 カ所
そ の 他	賀来地区自治会（毎月）	21 地区
	市政記者クラブ（随時）	21 社
	その他施設等	41 カ所

1. 研究主題

「地域とその先人を教材にした、子どもが歴史を身近に感じることができる歴史学習指導の研究」
～新学習指導要領をふまえて～

2. 主題設定の理由

主題を設定するにあたって、今の子どもや学校現場の実態をもとにした研究にしたいと考えた。そこで、勤務校である大在西小学校に協力してもらい、今年度の6年生160名にアンケートを実施した。

いくつかの項目に答えてもらったが、まず、小学校全教科の中で好きな教科として社会科を選んだ子は、体育、図工、理科に続いて、4番目に多かった。(理科との差は、1人だった)さらに歴史学習に対する好き嫌いについては、好き(約44%)、ふつう(約39%)、嫌い(約17%)という結果だった。よって、社会及び歴史学習に対して、いやな印象はもっていないことがわかった。

しかし、実際に教室で授業をしていると、積極的に歴史学習に取り組んでいると感じられる子どもの姿は、そう多くはないように思える。よって、子どもたちが、今よりもっと意欲的、主体的に授業に参加できる歴史学習のあり方を探るヒントとして、好き嫌いの理由に注目してみた。

好きと答えた子の中の約42%が「歴史上の人物を調べるのが楽しいから」と答えている。そこで、人物学習を軸にした歴史学習について研究すれば、子どもの意欲が引き出せる授業の手だてが見つけられるのではないかと思った。また、嫌いな理由として多かった答えに「時代や出来事、人物名など、覚えることが苦手だから」「内容が難しいから」というものがあつた。歴史学習をただの知識の習得に終わらせず、授業で扱う内容が自分たちの身近なものごととつながることで、教科書、資料集に書かれている歴史的事実が理解しやすくなるよう、地域を素材とした授業構想ができなしかと考えた。

また、来年度から、新学習指導要領が本格実施され、教科書も新しくなる中で、新学習指導要領で新たに加えられたり、取り扱いが強調されている学習内容についても、資料づくりや教材化ができると、現場の授業に役立つので、あわせて研究することにした。さらに、この一年間は、日頃の勤務では体験することが難しい歴史講座やフィールドワークをする貴重な時間であり、専門的な知識をもつ学芸員の方々と接することができるまたとない機会であるので、歴史の面白さや歴史を学ぶ意義を様々な角度から探り、それを子どもたちにも伝えていきたいと思った。

研究の進め方としては、一年間の間にできる限り授業実践を取り入れ、その成果と課題から随時、研究内容を検証することができればと考えた。

以上の理由から上記の主題を設定した。

3. 研究内容

- (1) 地域素材をいかし、先人の暮らしを見つめていく歴史学習指導の研究
- (2) 新学習指導要領をふまえた歴史学習指導の研究
- (3) 自分が学んだことを通して感じた歴史の面白さ、歴史を学ぶ意義を子どもたちに伝えるための研究

4. 研究の成果と課題

- (1) 地域素材をいかし、先人の暮らしを見つめていく歴史学習指導の研究

勤務校である大在西小学校の近くの「亀塚古墳」とその近くで生活していた「海部地域の人たちの暮らし」を調べるための資料、ワークシートを作成した。そこに、大在西小学校校舎建築前の発掘調査結果を付け加え、「自分たちが普段生活している地面の下から出てきたものを調べることからスタートし、それがだんだんと周辺地域の歴史(海部の人々の暮らし)へと広がっていく学習過程」を構想し、大在西小学校で授業実践を行った。

子どもたちからは「大在地区のことをもっと調べてみたくなった」「自分たちが住んでいる所にも大昔のものがあつたことにびっくりした」とい

った感想が多かった。やはり自分たちに身近な教材に対しては、子どもたちも興味をもちやすいことがわかった。また、歴史を学び始めたばかりのこの時期に、教科書にのっている歴史が、自分たちと無関係ではないと感じさせることができたのは意味があったと思う。

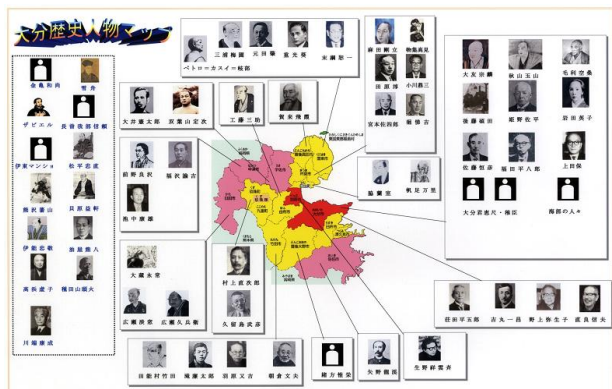


（資料となった大在西小校舎建築前空撮写真）

そのほかの地域資料として、地図を持って小学生たちが「校区遺跡めぐり」ができるといいと考え、大分市東部の遺跡地図資料を作った。

多くの学校は、その地域に遺跡があることから、「ごく身近な場所からスタートする歴史学習」は、大在西小以外の学校でも提案していくべきだと感じた。

人物学習用資料としては、県地図の上に大分の先人 61 名を配置した「大分歴史人物マップ」を作成した。人物学習を軸とした授業を行うときに、最初の手がかりとして活用したり、教室に掲示して子どもの関心を高める目的にも使えるものになった。



（大分歴史人物マップ）

（2）新学習指導要領をふまえた歴史学習指導の研究

新旧学習指導要領を比較し、改訂の趣旨を理解するとともに、具体的にどんな学習内容が変化し、

加わるのかを探っていった。その中で、文化遺産と縄文時代の学習についての記述が新たに付け加えられたことと、室町文化、町人文化の学習が強調されたことに注目し、それに対応する資料と授業のアイデアを考えていった。

文化遺産の学習については、すでに亀塚古墳の資料ができあがっていたので、縄文時代の学習に役立つよう、「横尾遺跡」の資料を作成した。

資料には、横尾遺跡の特徴、出土品、縄文のムラの変化の様子、横尾のムラの縄文人の暮らしなどをのせた。新しい教科書で縄文時代の勉強をするときに、大分の縄文時代の様子を知るための材料になると思う。

室町文化の学習するための題材として、大分を訪れて水墨画を残した「雪舟」を選んだ。自分たちが暮らす大分とつながりがあり、子どもたちが興味を持ちやすい人物学習を中心に調べていけるからである。

2 学期に行った授業では、まず、子どもたちに「水墨画体験」をさせ、雪舟や室町文化に対する興味をもたせた。普段、調べ学習に消極的な子ども「雪舟はなぜ色を使わなかったのだろう」「あんなに上手になるまでにどれくらいかかったのだろう」など、体験からそれぞれの疑問が生まれていた。体験学習を取り入れた歴史の授業の効果を感じることができた。

その後、多くの子どもたちから出た疑問をいかす形で、「雪舟はなぜ大分に来たのか調べよう」という課題に取り組みさせた。自分たちで調べて班ごとに発表する様子を見ながら、子どもたちが主体的に学習に取り組んでいると感じた。やはり大分が舞台になっていることが大きいと思った。また、人物学習をきっかけにして自分の知識が広がったことをうれしく感じているという感想があ



（子どもたちが描いた水墨画）

り、人物学習を軸に歴史を調べていく授業のよさを再確認することができた。

(3) 自分が学んだことを通して感じた歴史の面白さ、歴史を学ぶ意義を子どもたちに伝えるための研究

「歴史の勉強は難しい」「どうして昔のことを知らないといけないのか」という子どもたちの声に答えられるように、資料館での様々な体験から「歴史の面白さ」「歴史を学ぶ意義」を見つけ出していこうとした。

年間数回のテーマ展示があったが、7月から10月まで開催された「どこがちがうの?～ものの形から歴史を探る」という展示に興味をもち、展示図録や写真、担当学芸員さんのお話をもとに資料化させてもらった。「歴史クイズ」のような使い方ができるので、歴史の面白さを感じることができる資料になったと思う。

この一年の間に勾玉づくり、火起こし、昔の道具の説明 など、たくさんの小学生に指導する場を与えてもらった。どうしたら子どもたちが興味をもって取り組むのか、資料館の方たちと試行錯誤した経験は学校の歴史授業づくりにもきっと役立つはずである。「子どもたちが体感したことを次の学習にどう結びつけていくか」という大事な視点にも気付かされた。

坂ノ市小学校の校舎建築現場では遺跡発掘作業を実際にやらせてもらった。土の中に長い間ねもっていたものをさがしていく体験、大昔のものに直接ふれる体験は、気持ちをかなり高ぶらせるものだったし、土器片を土の中から取り出しながら、この場所で弥生人が暮らしていた様子が自然と頭の中に浮かんできた。「歴史体験」の効果を自ら実感することができた。



(坂ノ市小での発掘体験)

滝尾中学校で行われた中学生向けの講演の場に立ち会えたのも貴重な経験だった。この会では、

資料館の学芸員さんが仕事に対する思いや歴史に対するこれまでの関わり方を語った。歴史を研究している方の話に直に触れるこのような授業は、初めて歴史を学んでいく小学校でも取り入れていくといいと思った。

1月に歴史学習をひととおり終えた6年生にアンケートをとったところ、学芸員さんに聞きたいことがたくさん書かれていた。その中で、多かった質問や学校の先生ではなく歴史を研究している方だからこそ特に聞いてみたいことを10選んだ。あわせて、1年間資料館で研修をしてきた立場から、自分自身がぜひたずねてみたい質問を5つ考え、アンケートで答えてもらったり、インタビューさせてもらったりした。

その結果を6年生への手紙のような形で資料化した。「歴史の面白さ」「歴史を学ぶ意義」に対して、学芸員さんたちがそれぞれの思いを語ったこの資料は、歴史を教える自分たち教員にとっても貴重な資料と言える。

5. 今後の課題

①作成した学習資料の実践と改良

この一年で多くの歴史学習資料を作成したが、資料の様式、デザイン等、実際の現場で使いやすいようにするため、まだまだ改善の余地があると思う。特に学校の多忙さに対応するためには、何枚ものワークシートを精選して一枚の用紙にまとめたり、より子どもが興味をもつように写真等の資料をデジタル教材化する方法も考えられる。

②地域の歴史についての学習

地域の歴史資料をつくりながら自分はまだ大分の歴史のほんの一端しか知らないことを痛感した。これから少しずつでも身近な地域の歴史に対する知識を増やしていきたい。

③学校外施設との連携

今年度、様々な学校と資料館職員の立場で関わってきて、あらためていろいろなことに気づいた。両方の立場を経験したからこそ見えてきたものもあるので、現場に帰ったあとも資料館などの施設とどのように連携を図っていくべきかということを考えていきたいと思う。

歴史資料館利用状況

月別観覧者数

単位:人

年／月	開館日数	観覧者数									講座室利用者数								総来 合館 計者
		一般				団体				合 計	一般		資料館講座			映画会		合 計	
		大人	高校生	中学生	小学生	大人	高校生	中学生	小学生		大人	小中高生	歴史講座 解説講座	資料館 主催 体験講座	学校等 体験教室	大人	小中学生		
22/4	25	340	2	14	143	338	0	0	884	1,721	0	0	232	72	44	217	10	575	2,296
5	26	469	1	9	219	950	0	9	1,017	2,674	0	0	194	504	1,206	227	4	2,135	4,809
6	26	263	0	2	69	303	0	0	375	1,012	0	0	186	147	857	197	8	1,395	2,407
7	27	220	1	11	122	583	0	0	553	1,490	0	0	203	643	562	218	63	1,689	3,179
8	26	338	16	54	198	325	0	0	242	1,173	0	0	159	194	527	179	22	1,081	2,254
9	25	396	2	38	92	293	0	0	880	1,701	46	0	169	53	1,377	179	2	1,826	3,527
10	24	333	0	3	88	335	0	0	1,900	2,659	0	0	10	71	2,284	56	3	2,424	5,083
11	22	576	1	1	87	770	0	23	3,737	5,195	0	0	184	941	2,055	350	252	3,782	8,977
12	22	255	4	12	64	379	0	0	211	925	0	0	167	101	415	189	4	876	1,801
23/1	23	339	3	13	68	298	0	0	602	1,323	0	0	228	123	766	272	27	1,416	2,739
2	23	289	1	7	79	326	0	0	722	1,424	0	0	235	157	908	252	0	1,552	2,976
3	27	281	2	16	131	441	0	0	739	1,610	0	0	195	164	185	221	34	799	2,409
合計	296	4,099	33	180	1,360	5,341	0	32	11,862	22,907	46	0	2,162	3,170	11,186	2,557	429	19,550	42,457

管 理 及 び 運 営

歴史資料館協議会

第1回 開催日 平成22年8月11日(水)

会場 大分市歴史資料館 会議室

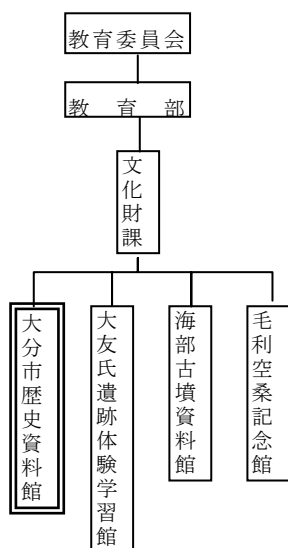
- (1) 委嘱状等交付
- (2) 委員紹介
- (3) 職員紹介
- (4) 会長及び副会長選出
- (5) 議事
 - ①平成21年度事業報告
 - ②平成22年度事業計画及び経過報告
 - ③その他

協議会委員名簿

氏 名	役 職	備 考
橘 昌信	別府大学教授	学識経験者
豊田寛三	別府大学学長	〃
高橋 徹	大分県立歴史博物館長	〃
渋谷忠章	別府大学非常勤講師	〃
村山厚美	大分市 PTA 連合会 女性副会長部員	社会教育 関係者
三浦祥子	元社会教育委員 NPO法人支援事業 選考審査委員会委員	〃
小野孝子	大分市小学校 校長会代表	学校教育 関係者
牧 弘志	大分市中学校 校長会代表	〃
重石 浩	大分市教育委員会 教育部次長	行政関係者

組織機構・分掌事務・職員・歳入歳出

1. 組織機構



2. 分掌事務

- (1) 資料館の施設及び設備の維持管理並びに使用に関すること。
- (2) 歴史資料、考古資料、民俗資料等(以下「歴史資料等」という。)の収集、保管及び展示に関すること。
- (3) 常設展示及び特別展示の企画及び実施に関すること。
- (4) 歴史資料等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 歴史、考古、民俗等(以下「歴史等」という。)についての講演会、講習会、研究会、映写会等の開催に関すること。
- (6) 学校、図書館、公民館等の諸施設に対する歴史等についての協力及び活動の援助に関すること。
- (7) 歴史資料等についての案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の刊行に関すること。

3. 職員

(平成23年3月31日現在)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	讃岐 和夫	嘱 託	北原 洋之
副館長	久多羅岐明	嘱 託	阿部 和広
副館長	武富 雅宣	嘱 託	神志那 潔
主 査	安部 幹夫	嘱 託	古瀬 美鈴
主 査	秋吉えつ子	嘱 託	大平 直子
指導主事	姫野 公德	嘱 託	細井 雅希
指導主事	後藤 真治	嘱 託	阿南 希依
主 任	中西 武尚	臨時職員	久下夕佳里
研修教諭	長田 晋		

4. 歳入歳出

単位: 千円

歳 入		歳 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
観覧料・		管理運営費	31,826
講座室使用料	651	企画展費	5,217
歴史講座受講料	93	資料購入費	1,493
図録売払代金	280		
電話料	1		
コピー料	1		
雇用保険徴収金	10		
計	1,036	計	38,536

施設管理業務の内容

1. 施設管理業務の一部委託

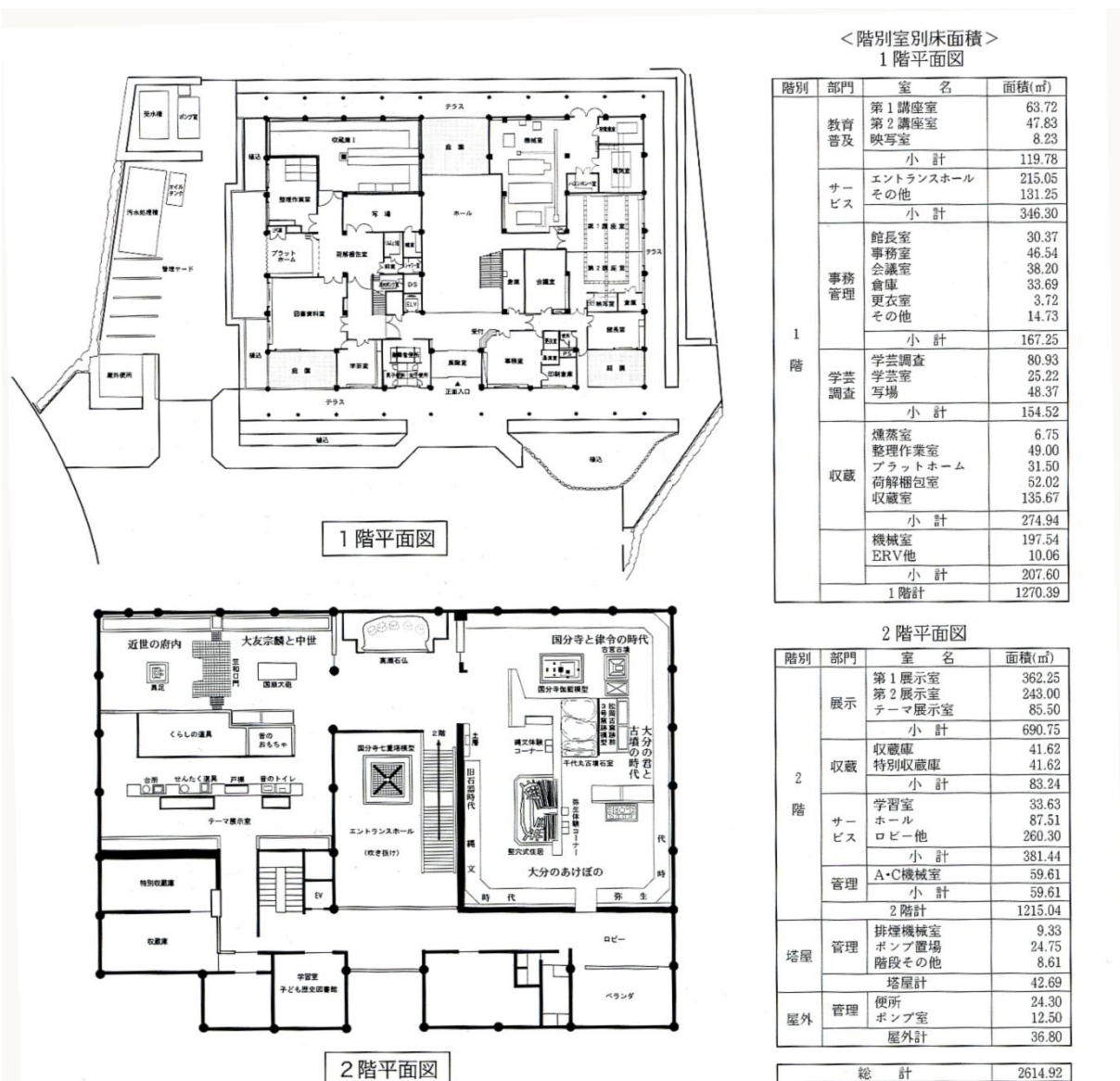
- ①警備……………総合警備保障㈱
- ②清掃(館内及び受水槽・高架水槽)
……………(有)日本ビルサービス
(館外)……………(有)協和環境
- ③電気工作物保管理
……………日本電気保安協会㈱
- ④空調設備(冷暖房)保守点検整備
……………日本暖房鉄工㈱
- ⑤消防設備点検……………新日本消防設備㈱
- ⑥エレベーター保守点検
……………フジテック㈱九州支店
- ⑦自動ドア保守点検……………大分ナブコ㈱
- ⑧浄化槽維持管理…浄化槽清掃管理事業(協)
- ⑨地下灯油タンク等漏洩検査
……………㈱エスピーシーテクノ九州

- ⑩モニターカメラ設備保守点検
……………J & K ビジネスソリューション㈱
- ⑪ボイラー保守点検…三浦工業㈱大分営業所
- ⑫展示資料及び収蔵庫燻蒸
……………㈱大分イカリテクノス
- ⑬燻蒸設備保守点検……………(有)環境技術
- ⑭歴史資料館緑地帯及び
豊後国分寺跡史跡公園管理
……………㈱広瀬造園

2. 消防訓練の実施 平成 23 年 3 月 2 日(水)

入館者を安全かつ迅速に避難誘導するとともに、初期消火活動の技術の向上をはかり、併せて職員の防火意識の高揚をはかる目的で実施した。 参加人員 19 名

施 設 の 概 要



利 用 案 内

開館時間 9 時～17 時

(入館は 16 時 30 分まで)

休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)
ただし、毎月第 1 月曜日は開館し、
翌火曜日が休館(祝日は開館)
祝日の翌日

(土・日曜日の場合は開館)

年末年始(12 月 28 日～1 月 4 日)

観 覧 料 大 人 200 円(団体 150 円)

高校生 100 円(団体 50 円)

中学生以下は無料

*団体は 20 名以上

*特別展開催中は、別料金となる
場合があります。

交通機関 JR 久大本線

◎豊後国分駅下車:徒歩 2 分

大分バス[国分新町行き]

◎歴史資料館入口下車:徒歩 5 分
大分自動車道

◎大分 I.C・光吉 I.C よりともに
約 15 分



大分市歴史資料館年報

2011

発行日 平成 23 年 5 月 31 日

編集・発行 大分市歴史資料館

〒870-0864 大分市大字国分 960 番地の 1

TEL(097)549-0880 FAX(097)549-5766